

2025 年 10 月 10 日

『みんなのスポーツ』 10 月号(No.517)から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の 10 月号は「**少子化が生み出す未来の地域スポーツ**」の特集号です。

私の視点で気づいたこと・感じた事、参考になる点を 3 点記載します。



- (1) **離島の推進委員の奮戦記「自分たちでなんとかしよう」**島根県隠岐の島町が今月号では印象に残ります。町の人口は 12,900 人に対してスポーツ推進委員は 17 人、人口比率から見ても横須賀市より多い。私も受講した全国スポーツ推進委員リーダー養成講習会受講の方が、地域の特性に応じた活動の多様性に刺激を受けられたのをきっかけに取り組み始めたこと。この町でも地域のつながりが希薄になっており、スポーツに関心の薄い方は参加しない。**スポーツをきっかけに世代を超えた交流を生み、地域が活性化するように取り組まれている点。特に子供や若者が「おもしろそう!」「やってみたい」と思えるプログラムを考えている。**また、子供たちに教わる「素直さ」に気づかれた点は参考になりました。私の学区で小学生にアンケートを行った中から冬の「ドッジボール大会」や夏の「流しそうめん」は予想を超える人が集まり継続しています。
- (2) **事例3「若者を惹きつけるアーバンスポーツの可能性」**記事。関心を持ったきっかけは、勤務していた研修センターの先輩のお孫さんが毎週末戸塚から横須賀のうみかぜ公園まで BMX の練習に来ている。10 数年前のことで様子を見に行ったらこれは面白いと思い、時々見に行っていました。今回冊子に書かれていることはその通りだと思います。アーバンスポーツが若者に惹きつける理由は、自由度の高さにあると思います。ひとりで始められ、自分のペースで楽しむことができる。東京五輪スケートボードで、失敗した選手を他の人がたたえあい、成功にはみんなで喜ぶ姿に「こんなスポーツ」があるのかと本当に感じました。
今横須賀もアーバンスポーツに力をいれています、文化スポーツ観光部の企画課が主に担当されイベントがあるたびに私は観戦に出かけています。
札幌大学の橋本要さんが最後のところで書かれている、**「重要なのは、地域の若者の声に耳を傾け、彼らが主体的に関わることができる仕組みづくり」**と述べられています、同感です。
- (3) **ファミリー健康体力向上事業中央講習会**の記事。横須賀でも研修会を行って、スポーツの日に行う「体力測定」や小学校他から要請があった場合に「新体力測定」については、新任研修会をはじめ、Web での確認できるようにいつでも学習できるように行っています。
今回冊子を読んでいて感じたこと他は次の通りです。①体力測定は健康づくりの第一歩。
②参加者の笑顔を引き出す、ポイント ③スポーツ推進委員の役割の 3 点は同感。今できていないのは、「測定後のフィードバックが鍵」については今後考えていきたい。

今月号で3つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことのできることから始めて(行動)みませんか？

＊ **本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがある**ように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。**問題意識や感度を高めていく**と紹介されている事例が使える場合と横須賀ではこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど20年近く購読していると思います。特にここ1、2年で**冊子内容が読者参加型の編集**になりました。活動はみんなでは是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上